

片貝地区竣工

片貝地区は、山武郡九十九里町と東金市にかけての標高0.7mから3.7mの範囲にある九十九里海岸低地に位置し、北西から南東に向かって1/2,000程度の勾配を示す平坦地である。

水利状況としては、両総用水東金支線から用水補給が行われているものの、地区全体の必要量を確保することは困難であり、反復水の利用や排水路を堰上げる地下水止工により必要量を確保していた。反復水の利用は地区全体の排水系統、用水系統に配慮した組織的な利用形態が確立されておらず、水管管理のための労力が多大な上に水質の劣化も著しい状態であった。

また、排水状況は施設の老朽化による通水能力の低下が見られ、その維持管理に苦慮しているほか、排水路敷高が浅く、迅速な地下水位の低下が困難なことから、水田の汎用利用が不可能な状況であった。

経営体育成基盤整備事業 片貝地区は、耕地の汎用化、作物品質の向上をはかり生産性の高い農業の確立を目指して、排水路整備と農道整備を併せ行う土地改良総合整備事業として平成5年に採択された。

その後平成10年の計画変更を経て、現在の経営体育成基盤整備事業に至る中で、用水施設整備も加え農業の近代化を目指すことになった。用水系統は、宮島池の利用と3つの調整池を新設し、4つの機場を設けて地区を4ブロックに分割、そこで得られた反復水を総延長L=40.5kmに及ぶパイプラインで地区に供給することにより、用水の安定供給を実現した。

一方で、着工当初からの排水路整備と農道整備を延長にしてそれぞれL=27.6km、L=9.3kmと押し進め平成18年度に竣工にいたった。これらの基盤整備を活用して、片貝地区は担い手の育成、農地利用集積の推進、農作業の連担化による営農コストのより一層の削減等、地区の活性化を推進しさらなる飛躍を図っている。



新しい試み－そば栽培



水利用の効率化－用水整備



水田汎用化－排水路整備



荷痛み防止－農道整備